

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 07

学校名・団体名	宇都宮市立豊郷中央小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	よりよい社会を目指して主体的に学び合う社会科の授業
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>急速な情報化や技術革新が人々の生活を質的に変化させつつある。その社会変化は、急激かつ複雑で予測困難な状況になっている。このような社会背景を受けて、本校では、見通しの持ちにくい社会の変化に受け身になるのではなく、よりよい社会の実現を目指して、自分のよさを生かしながら仲間とともに主体的に学び合うことで、問題解決をしていく子供を、どのように育成すべきかを研究課題とし、平成29年度より「よりよい社会を目指して主体的に学び合う社会科の授業」をテーマとして研究に取り組んでいる。</p> <p>なお、本校の取組については、栃木県小学校教育研究会社会科部会の支援を受けているものであり、平成31年11月に開催される関東地区小学校社会科研究協議会研究大会において授業を公開する予定である。</p>	

1 研究内容

子供たちが、主体的に学びに向かう手立てや、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、他者と協働しながら自分や集団の考えを広げ深める手立て、問題解決を通して自分と社会との関わり方やよりよい社会の構築を考えていくことについて研究を進めた。

具体的には、次のようなア～エの内容である。

- ア 問題意識や追究意欲を引き出す教材の開発と単元展開の工夫
- イ 学習内容の構造化
- ウ 社会的事象の意味を多角的に捉え、思考を深める問いの工夫
- エ 深い学びを実現させる「学び合い」の工夫

2 研究の成果と課題

平成 30 年 6～7 月に、第 3 学年～第 6 学年の各学年で 1 クラスずつ研究授業を実施した。また、平成 30 年 11 月には来年度の発表に向けてのプレ大会を実施し、県内各地からの参加者に 4 つの授業を公開した。

これらの取組から、次のような研究の成果(○)と課題(△)が見えてきた。

- ア 問題意識や追究意欲を引き出す教材の開発と単元展開の工夫
 - 切実感のある教材や地域の身近な教材を扱うことができ、子供たちの問題意識や追究意欲を引き出すことができた。
 - どの学年も資料提示の仕方を工夫することができ、子供たちの関心を高めることができた。
 - △ 人の思いや願いに気づき、社会を身近に感じることができるよう、人との関わりを重視した単元展開や授業をさらに行っていく必要がある。
 - △ 体験的・作業的な活動を計画的に取り入れた単元展開も考えていきたい。
- イ 学習内容の構造化
 - 学習内容構造図を作成することで、「身に付けさせたい力」や調べること、捉えさせることを明確にして授業に臨むことができた。
 - △ 指導案の「小単元の学習計画」と「学習内容構造図」が重複する部分があるが、2つの役割の違いを意識して作成し、活用していく必要がある。
- ウ 社会的事象の意味を多角的に捉え、思考を深める問いの工夫
 - 1 時間の授業の中で、もう一段深い理解に導いたり、新たな視点に気付かせたりするための問いを設定することができた。
 - △ もう一段深い理解に導いたり、新たな視点に気付かせたりする発問が、子供たちの思考を分断してしまう場合がある。学習活動のつながりを考えた発問を研究する必要がある。
- エ 深い学びを実現させる「学び合い」の工夫
 - 友達の意見をしっかりと聞いて反応できる子供や、考えをつないで話し合う子供が増えてきた。
 - 付箋紙やホワイトボードなどを効果的に活用することができた。
 - △ 型にはめたような話し合いになってしまった場面がある。子供の思いを大切にしたい話し合いにしたい。
 - △ 社会科以外の教科でも積極的に思考ツールを活用し、子供たちが使えるツールにしていきたい。



スーパーマーケットの工夫とお客さんの願いとは、どのようにつながっているのだろうか。



森林を守るために、私たちはどのようなことができるのだろうか。



明日やってくる記録的豪雨に備えて、自分たちにできることは何だろう。



この長い戦争を整理して、自分の考えをまとめよう。